

第 8 号

2018.9 発行

SEPTEMBER
2018

文部科学省博士課程教育リーディングプログラム

筑波大学グローバル教育院

エンパワーメント情報学プログラム

NEWSLETTER

2017年度

エンパワーメント情報学プログラム 第2期修了生が出ました!

2017年度EMP修了生

ERICH Floris Marc Arden, CHACIN Aisen Carolina,
PERUSQUÍA HERNÁNDEZ Monica, JAZBEC Maša



エンパワーメント情報学とは

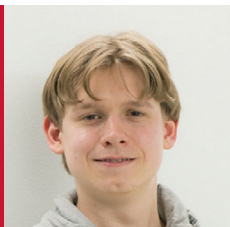
「人の機能を補完し、人とともに協調し、人の機能を拡張する情報学」として、本プログラムが提唱する新しい学術領域です。これからの人類社会にとって、安全性、利便性、心の豊かさの向上といった様々な観点から、人の生活の質を向上させる工学システムを創出できる人材の育成を目指しています。



エンパワーメント情報学
プログラムリーダー
岩田 洋夫 教授

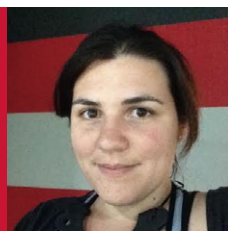
» 修了生へのメッセージ

本プログラムは、順調に進捗し2回目の修了生を世に送り出すことができました。博士課程教育リーディングプログラム事業が産官学にわたって活躍できる博士人材の育成を目的とし、文部科学省からも就職率100%のプレッシャーがかかる中で、我々が用意した実践力を育成する演習・実習科目を習得した学生が、起業も含めて全員が就職できたことは、大変喜ばしく思います。博士課程教育リーディングプログラム事業の事後評価では、修了者の成長と人的ネットワークの構築が重要な評価項目になっています。2016年度に同窓会組織を立ち上げましたが、修了生の皆さんには、社会に出てからも本プログラムの人的ネットワーク作りに貢献することを切に期待します。



ERICH Floris Marc Arden
システム情報系
鈴木 健嗣 教授指導

It is an honor to be a member of the second generation of students to graduate from the Ph. D. Program in Empowerment Informatics. The interdisciplinary focus of the program has allowed me to learn many new things; robotics and media arts being just two of the topics which I have explored in depth. My activities as part of this program have not only taken me to Japan, but also to Austria, The Netherlands, The United States, China, Hong Kong and France. For new students joining the program, I recommend to work hard but to not forget that these are probably the last few years of your life as a student and you should hence try to enjoy every moment. Being a member of a young and growing program was not always easy, but nothing worth in life is easy. I am looking forward to representing my alma mater in the future. Thanks to all the faculty and staff who have shepherded us throughout the years.



CHACIN Aisen Carolina
システム情報系
岩田 洋夫 教授指導

All of us at the Empowerment Informatics program are incredibly fortunate. Engaging in intellectual pursuits with the utmost support from the brilliant minds of both, the senseis and my student peers, as well as the kindest staff, has been an extraordinary privilege. My years at Tsukuba are unforgettable; the lessons from this experience will guide me through life, as I continue ahead. Beyond academics, I feel that this adventure has prepared me to continue challenging myself in business and further seek multicultural immersion. EMP has seen and shared seminal moments of my life, and for that, I feel that we are a family. I am incredibly grateful to all of you, and I hope that one day I can give back to the world as much support and knowledge, as I have received from you. On forward, I will remember that regardless of how creative an inquiry might be, there will always be a way to "Datalyze". Keep imagining the future, empowering the world with your inventions, augmenting, supplementing, and harmonizing. Thank you for everything!!!!



JAZBEC Maša
システム情報系
岩田 洋夫 教授指導

Studying at Empowerment Informatics was very challenging and exciting. I have expanded my knowledge while working on projects together with people from different fields than my own. I am very grateful that I had the opportunity working and learning from a very prominent scientists and engineers. Now I am excited to work on new projects where I will be able to take advantage of newly acquired knowledge and experiences gained at Empowerment Informatics PhD. program.



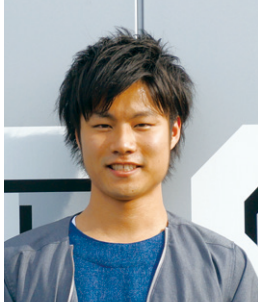
PERUSQUÍA HERNÁNDEZ Monica
システム情報系
鈴木 健嗣 教授指導

As we strive to shed light in the mechanisms that make us function as humans, and to create technologies that will supplement and enhance that functionality, it is necessary to combine knowledge from several disciplines. The program in Empowerment Informatics has been a great opportunity to both broaden my knowledge in multiple areas, whilst acquiring the specialized knowledge required to design and implement my ideas. During my PhD, I collaborated with professionals in Artificial Intelligence, Virtual Reality, Robotics, Psychology, and Design. These collaborations allowed me to achieve high quality research, and are the main advantage of Empowerment Informatics over traditional PhD programs. Therefore, I encourage EMP students to collaborate with each other, and to enrich their research with points of view outside their own expertise. Thanks for your attention. I hope you're doing well. Please send all my regards and apologies to the EMP staff and professors.



2018 年度 エンパワーメント情報学プログラム 第 5 期生が入学しました！

Student Comments

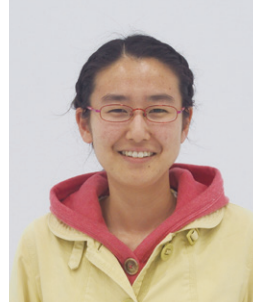


2018年度入学
進藤 裕太

私の将来の夢は、自分が作った製品やサービスが多くの人々に使われ、人々の生活をより豊かにすることです。人に関する複合的な知識や特定の分野にとらわれない多角的な視点を持ち、問題に対して最適なアプローチをとれる力を身につけるために本プログラムに参加しました。

また、海外でも通用する語学力を身につけたり、専門分野の異なるレベルの高い学生と交流したりすることも本プログラムの魅力だと感じています。自動車や医療、介護業界などのものづくりは、人々の生命に直接関わってきます。そのため、真面目さや丁寧さを持ち人として立派な研究者が求められていると考えており、そのような研究者になりたいと考えています。

Student Comments

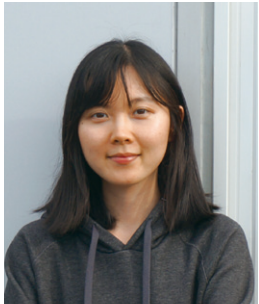


2018年度入学
本間 由樹子

私は、自分の開発する技術は、それを使う人に寄り添うように開発するべきであると考えています。人々に寄り添うためには、必要とされる結果が出せるだけではなく、使いたくなることや使っていて心地よいこと、使ってよかったと思えることなどが

重要です。つまり、「何をやるか」だけでなく、「どうやるか」もよい技術には必要です。エンパワーメント情報学プログラムでは、工学や理学を専門とされる先生だけでなく、デザインや心理学などの先生からも指導がいただけるため、広い視野から「どうやるか」について検討できると考えています。こういった学際的な指導の下、基本的な機能だけではなく価値を自分の研究に与えることを目指していきます。

Student Comments



2018年度入学
KIM SunKyoung

I started a Ph.D. course in Empowerment Informatics in April 2018. An interdisciplinary approach, an experimental curriculum and a supportive research environment brought me here from South Korea. My main research goal is to help people who need psychological support in areas including visual perceptual processing, emotional awareness, and social interaction. In particular, I am interested in detecting specific behaviors in humans and providing for their special needs. One focus of my research is interventions for children with Autism Spectrum Disorder. In this research, I am finding ways to help individuals by grasping each person's difficulties and giving appropriate treatments. To achieve my research objective, I am adopting various approaches ranging from

psychology, which was my major, to science and engineering. I think that we can help more people in more efficient and sophisticated ways with science and technology. Here I expect to see the world from a new perspective which can lead to a deep insight for my research to make the world better.



2018年度EMP新履修生(15名)

1年次 今堀仁誠、桑原隆志、小岩 慎太郎、酒井 友裕、進藤 裕太、西村勇輝、平岩 匡、本間由樹子、CHEN Yang、REBELO DAL'BELLO Lucas
3年次 石切山順一、ROJAS FERRER Cesar Daniel、KIM SunKyoung、REYES Vera Paola Edosur、ZHONG Ying

EVENT

Flies in the Sky at LargeSpace



システム情報系

山田 亜紀 助教

2017年8月25日(金)、EMP海外協力教員であるChrista Sommerer教授、Laurent Mignonneau教授(両氏ともInterface Culture Department Institute for Media University of Art and Design Linz所属)、EMPプログラムリーダーである岩田 洋夫 教授、EMP4年次の高鳥 光が、エンパワースタジオ内にあるラーjspスペースにて「Flies in the Sky」をテーマとした展示を行いました。本展示はVRアプリケーションを運用したものであり、芸術と工学とが融合し、アーティストの感性と技術者の知見が一体となって成し遂げた作品です。世界最大のVR空間であるラーjspスペースに立体映像を投影し、実際に飛び交う蠅の群れが存在するかのような映像を発生させ、観覧者に没入感を与えます。参加者の一人は蠅の群れの中心に位置し、本人が走ると蠅は散り散りになります。芸術的感性と最先端のVR技術を駆使することで成し得た作品であり、大変見応えがあります。また、ラーjspスペースに投影された蠅の立体映像という視覚効果の他に、没入感溢れる音響効果により、飛び交う蠅の群れに取り囲まれているような感覚が得られます。群がった蠅を走り回って振り払う現実感と、多くの文化において忌避されがちな「蠅」というモチーフとのインタラクションなどが、この作品の見所となっています。



EVENT

JAPAN VR EXPO 2017

システム情報系

圓崎 祐貴 助教

2017年9月14日(木)から16日(土)、エンパワースタジオにて、JAPAN VR EXPO 2017が開催されました。本イベントは研究機関や企業のトッププロによる「先端VRコレクション」、「VRニュービジネス・ショーケース」と、学生たちの「IVRC(国際学生バーチャルリアリティーコンテンツ)予選大会」が融合したイベントで、ハイアマチュアが集結するVRの祭典として開催されました。暑い中3日間の延べ600人を超える人が来場されるなど大変盛況でした。エンパワースタジオの大空間棟(グランドギャラリー・ラーjspスペース)・研究棟(ノド型実験室・ショールーム型実験室)を使用するなどエンパワースタジオ全体を大規模に活用し48件もの展示がありましたが、電源の増設工事を行わずにすべての展示の電源を賄うことができたのはエンパワースタジオの広さと合わせてVR研究・展示施設としてのエンパワースタジオの持つ潜在能力が高かったことを改めて実感させられました。

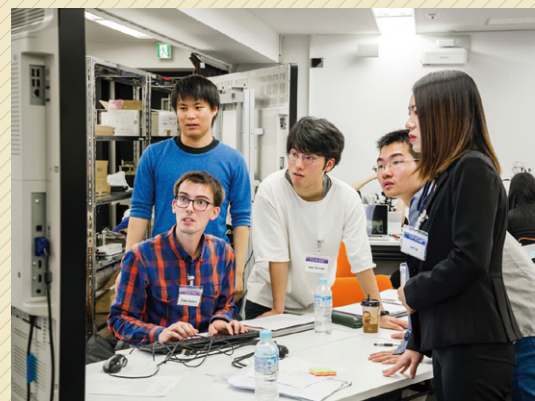


EVENT

Waseda-Tsukuba-Tsinghua Leading Summer School 2017

システム情報系
廣川 暢一 助教

2017年9月30日(土)から10月1日(日)、早稲田大学実体情報学博士プログラム「工房」にてWaseda-Tsukuba-Tsinghua Leading Summer School 2017を実施しました。本イベントは本学と早稲田大学、中国の清華大学との合同で開催され、各大学からの参加した30名前後の学生が混成グループを作り、実体情報学博士プログラムで開発されたコンパニオンロボット「cbot」の動作プログラミングに取り組みました。2日間という短い時間にも関わらず、最後の発表会では全チームが取り組みの成果をデモンストレーション形式で実演しました。土曜日の夜には懇親会も催され、学生同士の懇親だけでなく教員・スタッフ間の交流も深める良い機会となりました。





EVENT

Interdisciplinary Workshop for Leading Students 2018 (IW4LS2018)

2018年4月6日(金)から7日(土)、エンパースタジオにおいて、EMPの主催で、Interdisciplinary Workshop for Leading Students 2018 (IW4LS2018)を開催しました。本ワークショップは分野横断型(情報)リーディングプログラムの今後の連携強化、学生交流を目的としたもので、名古屋大学「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」、早稲田大学「実体情報学博士プログラム」、豊橋技術科学大学「超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」、本学EMPの4大学リーディングプログラムの学生、教員が、お互いのプログラムの紹介や、今後の連携に関するディスカッションを行うものです。今回の参加者は全体で83名(内学生56名、教員20名、事務7名)、EMPからは総計42名(内学生29名、教員9名、事務4名)が参加しました。なお、今回はEMPの4年次生が中心となって、ワークショップの運営にあたりました。

ワークショップは2日にわたって開催され、1日目は、岩田プログラムコーディネータの挨拶後、各大学の紹介、施設見学の後、7チームに分かれてグループワークを実施しました。今回のグループワークのテーマは、「20年後の未来に私達が実現化するであろう、未来のライフスタイル、デバイス、サービス、システムはなにか?」であり、各チームはダンボール等を使ったプロトタイピングを行い、最終発表では未来の世界を劇形式で表現します。1日目は、夜遅くまでアイデアソンを実施し、2日目の午前中に前日考えたアイデアをモックアップ等で作製、午後からラージスペースに会しグループワークの成果発表会を開きました。成果発表については、教員を含む参加者全員が4つの評価項目(視点/アイデアの質、フィージビリティ、社会的インパクト、プレゼンテーションのわかりやすさ)で評価した結果、「Salty Smart Barrier-Ful House」を発表したチーム6がBest Proposal Awardを受賞しました。このチームにはEMP新入生(1年次)本間 由樹子さんとCHEN Yangさんが参加していました。発表会後の情報交換会を、本学校内のCafé MARHABANにて開催し、総勢77名の参加がありました。発表会の表彰式が行われるとともに、4大学の懇親を深めることができ、ネットワークを広げるための絶好の機会となりました。なお、来年度は名古屋大学で開催されることが決まりました。



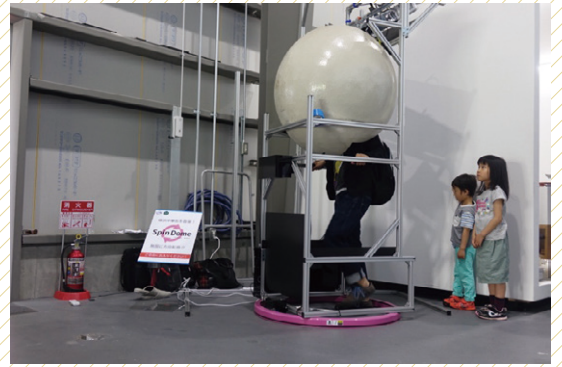
Student Comments



2015年度入学 糸井川 椋

私はIW4LS運営の総合的なマネージャーを担当し、スケジュールの調整のもと各担当者のタスク管理や、物品の発注・管理などを行いました。IW4LSは普段なかなか交流する機会のない他大学リーディングプログラムの学生同士が交流する貴重な機会です。ホスト大学としてこの交流を妨げず、むしろエンパワーするためには何が必要であるか熟考し、運営委員と議論を重ね、それらをまとめることに私は注力しました。その結果、アイデアを議論するだけでなく、実際に手を動かして形にしてみるワークショップなどを通して参加者の緊張を解きほぐし、円滑な交流機会を提供することができたと思います。また、私自身にとっても、社会的な意味での人をエンパワーする力を得る良い機会だったと思います。

EVENT EMP Open Studio 2018



2018年5月6日(日)、エンパワースタジオにて、プログラム紹介及び入試説明会を兼ねた研究成果発表会「EMP Open Studio 2018」が開催されました。本イベントは、EMP履修生10名(5年次 利根 忠幸さん、4年次 小崎 湧太さん、佐藤 晃矢さん、敷根 伸光さん、DOLLACK Felixさん、TAN Chun Kwangさん、XIE Chunさん、3年次 高嶋 倫太郎さん、2年次 杉山 太成さん、1年次 小岩 慎太郎さん)からなる実行委員会が企画、運営しました。

Student Comments



実行委員長 2017年度入学 小崎 湧太

EMP Open Studio 2018は、学内・学外の方にEMPの活動を知って頂くために、EMP履修生が主体となって年に一度、企画・運営を行う研究成果発表会です。過去の先輩たちの運営を参考にしながら履修生がアイデアを出し合い、今年度の履修生の研究を中心に成果発表会を作り上げていきました。

私は委員長として、各担当者のタスク管理や展示する研究デモなどのマネジメントに注力しました。過去の先輩の運営を参考にしたいとは言え、この規模の企画の運営は大変難しかったです。特に役割の分担とその進捗などの管理は、担当者にどれだけ主体性を持って行ってもらうかなど、協調性の重要さをひしひしと体感しました。しかし、努力の甲斐があり、当日は多くの方に参加いただき、楽しんでもらえました。このような貴重な経験を、実行委員長を通して経験できたことは大変有意義でした。次回開催の際には今回得られた知見を活かし、さらに良いものになればと考えています。最後に、本発表会にお越し下さった皆様、ご協力下さった先生・事務・EMP履修生の皆様、そして委員会メンバーに対し、心から感謝申し上げます。



EVENT

日蘭合同 サマーワークショップ



システム情報系

廣川 暢一 助教

2018年7月7日(土)から7月17日(火)、筑波大学、Eindhoven University of Technology (TU/e)、Fontys Universityの3大学での合同サマーワークショップが開催されました。昨年度から引き続き2度目となる開催で、本年度はオランダTU/eキャンパスにて実施しました。筑波大学からはEMP履修生10名に加え芸術専攻及び感性認知脳科学専攻から5名が参加し、TU/e参加者との混成チームを組み「地域と人々を活性化させるサービスやプロダクトの提案」について約10日間に渡り集中的に取り組みました。

2018年度入学

ROJAS FERRER Cesar Daniel



The summer workshop "Vitality & the city" was successfully held in various spaces of the city of Eindhoven, Noord-Brabant, Netherlands. It was an incredible opportunity for working in solutions that tackle problems related to vitality with a multi-cultural/ multi-disciplinary team during a short period of time.

In my case, I was involved in the development of a system proposal for empowering Physical Education (PE) teachers, taking into consideration the real needs of PE professionals and the effect of physical education on children's development. The workshop required speed, prototyping skills and effective brainstorming process, giving the perfect chance for taking to the limit our communication and planning abilities. I am sure that the multiple group discussions and speed presentations we experienced during this intense workshop will translate in personal and professional growth for all the participants, and the activity as a whole will serve for deepening the relationship between Noord-Brabant and the Tsukuba region as innovation hubs from both Japan and the Netherlands.

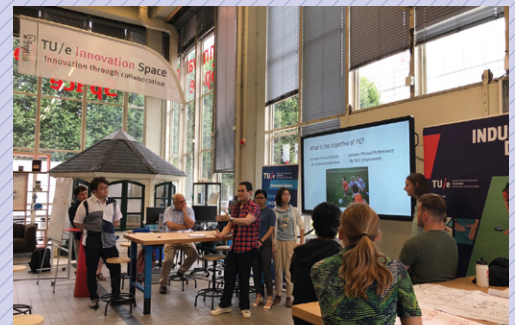


2018年度入学

西村 勇輝



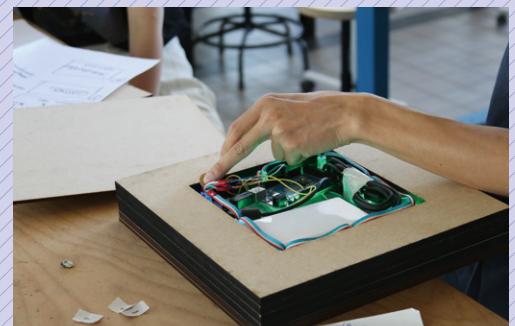
オランダ南部の工業都市であるアイントホーフェンで行われた今回のワークショップでは、テクノロジーを用いて健康や運動に関する満足度や生活の質をどのように高めていくのかについて、様々な講義やスポーツ活動を通して学ぶことができました。グループワークでは「運動公園に子どもを集めるためにはどうしたら良いのか」というテーマについて取り組みました。1週間という短い期間でアイデアを出し、そのアイデアを表現するプロトタイプまで作るというオランダのスタイルや行動力には大変驚かされました。週末には、フィリップス博物館やデンボス観光などにも参加し非常に有意義な時間を過ごすことができました。



感性認知脳科学専攻

奥村 恵美佳

参加したアイントホーフェン工科大学、フォンティス大学、筑波大学の合同ワークショップでは、「Vitality & The City」をテーマに、どのようなサービスが人々の健康や日常生活での活力向上に貢献できるかについて、グループ毎に発案・提案を行いました。最終発表ではアイデア及びプロトタイプまで紹介するなど、高い生産性を生み出すことができました。また、オランダの教育・インフラ・大学運営などは合理的に設計されており、プロジェクトにおける講義だけではなく、都市そのものから学ぶことが多々ありました。オランダ学生は積極的な発言や意欲も高く、良い刺激を受けることができたため、今回得たものを今後の研究活動に活かしていきたいです。



画像情報研究室 (CVIM-Laboratoy)

Student Comments

システム情報系 亀田 能成 教授・北原 格 准教授指導



亀田 能成 教授

画像情報研究室の教員は、計算科学研究センターの計算情報学部計算メディア分野を担っています。画像情報研究室が属する計算情報学研究部門は、「中長期的観点から計算科学の研究を抜本的に発展させる斬新な方法の開拓研究を行う部門」として、2004年度に発足した部門です。人間社会とその環境を主な対象とする新しい計算科学の枠組みを創成し、その基盤を確立することを目標として研究活動を推進しています。



北原 格 准教授

純粋なデータ処理の効率や速度が求められる通常のスーパーコンピュータ分野とは違い、人間に纏わる情報を処理対象とする計算科学では、情報処理の時間軸を人間に合わせる必要があります。そのために、グローバルに広がる人間社会とそれを取り巻く環境(生活空間や都市環境など)を対象とした研究を進めています。それによって得られる実観測データとシミュレーション結果とを融合させた情報を、人間に分かり易い形で提示し人間社会へフィードバックするために、計算メディアを仲立ちとするコンピューテーションの新しい枠組みを提案しています。

研究としては、コンピュータビジョンやパターン認識、それに拡張現実(Augmented Reality)や複合現実感技術(Mixed Reality)をベースに、その基礎技術から応用展開まで幅広く取り上げています。具体的な取り組みの一部を挙げると、大規模空間におけるプロカムシステム、スポーツシーンを対象とした映像解析および自由視点映像生成、3次元画像センシング技術の実利用(バーチャル手術、デジタル鉱山、世界遺産保存、自動走行車両)、それに視覚障がい者を含む歩行者への知的ナビゲーション支援などです。興味のある方は、EMP事務局まで気軽にご相談ください。

2017年度入学
XIE Chun



私が所属している画像情報研究室(画像研)は、教員3名と学生が20人ほどいる大きな研究室です。画像研は、コンピュータビジョン、画像処理及びAR/VR技術を活用し、自由視点映像、スポーツ映像解析、視覚障がい者支援、自動運転、教育活動支援、世界遺産保護など、幅広い研究領域に取り組んでいます。社会的ニーズへの応えは勿論、現場での実用化も重視し、限られた資源、限られた時間、限られたスペース、限られた情報など、様々な制約の中で、「よりよくなる」「新しいものを生み出す」ことを目指す研究が行われており、学生たちの現場力の育成に繋がっています。画像研のゼミは、単なる進捗報告の場ではなく、今までの研究の背景から今後の課題までを論理的にまとめて発表し、質疑とアドバイスを受けるという学会発表のような形式で行われており、論理的思考とプレゼンテーション能力を磨く機会にもなっています。研究室では毎年ゼミ合宿も行っています。学生がチームに分かれ、課題の達成度をチーム間で競い合うコンテスト形式の合宿であり、自分の持つ知識と経験を新たな場面で活かしながら他人から学び、知見を広げています。また、画像研の合宿は、学年間のコミュニケーションを深める他に、チームワークの重要性を実感させる効果も発揮しています。

グループウェア研究室

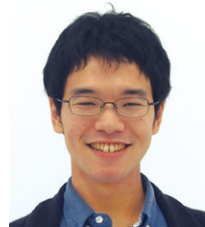
Student Comments

システム情報系 葛岡 英明 教授指導



私たちの研究室では、コンピュータと情報通信ネットワークを利用して人々の共同作業やコミュニケーションを支援する分野の研究をおこなっています。特に、ビデオ対話システムやテレプレゼンスロボットを利用したテレアシスタンスシステム、ミュージアムガイドロボット、精神疾患患者の家族介護者を支援するWebアプリケーション、子供たちの共同学習を支援するタンジブル学習教材などの研究で世界をリードしています。この研究室のユニークな点は、社会科学、認知科学、教育工学などの、いわゆる文系の研究者と学際的な共同研究をおこなうことによって、インタラクションの本質を理解しつつ、システム開発をおこなっていることです。なので、私たちの研究室では、様々な分野の専門用語が飛び交っています。最近はこの学際的な研究方法を、EMPの学生たちや、若手研究者に伝えようと努力しています。

2018年度入学
酒井 友裕



私が所属するグループウェア研究室では、人と人工物とのインタラクションを支援する研究を行っています。認知科学や社会科学などの知見により人の特性を解明し、これらと工学を融合させたシステムを開発しています。研究内容は教育支援、精神疾患患者の家族介護者支援、遠隔コミュニケーション支援、インタフェース評価・デザインなど多岐にわたります。また当研究室では他大学や企業との共同研究が盛んに行われていることや実際の現場におもむき評価実験を行うという特徴があります。そのため社会のニーズを感じ取り、どう社会問題を解決するかに関わる点が魅力だと思います。研究室の雰囲気は、教え合いやディスカッションなどが活発に行われています。それぞれが異なったテーマを与えられているため、異なった視点からの議論が行われ、日々新しい発見があります。また、毎年研究室主催のキャンプが行われるなどメンバー同士の仲も良く、明るい雰囲気の研究室だと思います。

プログラム履修生の活動



敷根 伸光さんが、ICEC2017で Best Paper Honorable Mention Award受賞!

2017年9月19日(火)、ICEC2017において、3年次 敷根 伸光さんの論文「A Game System for Learning Mathematics with Pacing Considering Individual Motivation and Feeling」がBest Paper Honorable Mention Awardを受賞しました。



西田 惇さんが、総務省 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) 平成29年度独創的な人向け特別枠 「異能vation」プログラム「破壊的な挑戦部門」に採択!

2017年10月27日(金)、総務省が実施する戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) の平成29年度独創的な人向け特別枠「異能vation」プログラム「破壊的な挑戦部門」において、4年次 西田 惇さんが採択されました。本事業は、ICT分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外で野心的なICT技術開発課題に挑戦する人を支援する事業で、今年で4回目になります。昨年度の約7倍となる7,949件の応募の中から、有識者による一次書類審査および最終選考会での面接審査を経て、本申請を含む13件が採択されました。



倉本 尚美さんが、ジャパン・ビジネスモデル・コンペティション (JBMC) 優勝!



全米、ヨーロッパや東南アジアなどから選りすぐりのチームが参加してビジネスモデルのプランを競い合うInternational Business Model Competition (IBMC) の日本唯一の公認大会であるジャパン・ビジネスモデル・コンペティション (JBMC) において、2018年3月4日(日)に、5年次 倉本 尚美さんが開発中の頸部装着型嚙下モニター(通称:GOKURI)に関して発表し、セミファイナル19組、ファイナル9組より選出され、優勝しました。これにより、27カ国・5,953チームが参加したIBMC2018の決勝戦(アメリカ開催)へ日本代表として参戦することとなりました。



佐藤 綱祐さんが、情報処理学会 インタラクシオン2018にて インタラクティブ発表賞(プログラム委員推薦)受賞!

2018年3月5日(月)から7日(水)に学術総合センターで行われた、情報処理学会主催の第22回インタラクシオン2018において、4年次 佐藤 綱祐さんがインタラクティブ発表賞(プログラム委員推薦)を受賞しました。インタラクシオンはHCIに関する国内最大の会議で、本研究は投稿論文計231件の中からプレミアム発表枠として採択され(計43件)、当日のプログラム委員による審査を経て優秀な発表と認められ、インタラクティブ発表賞(プログラム委員会推薦)(計8件)を受賞しました。



小崎 湧太さんが、ロボティクス・メカトロニクス 講演会2018にて、日本機械学会若手優秀講演 フェロー賞受賞!

2018年6月2日(土)から4日(月)に催された「ロボティクス・メカトロニクス講演会2018」にて、4年次 小崎 湧太さんが、日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞しました。本賞は26歳未満の機械学会員学生を対象とした賞であり、上位5%の優秀発表が選出されます。



受賞一覧

受賞日	氏名	イベント名	受賞対象論文・作品	受賞名
2017年 9月19日	敷根 伸光	ICEC2017	A Game System for Learning Mathematics with Pacing Considering Individual Motivation and Feeling	Best Paper Honorable Mention Award
2017年 9月27日	(VALDERRAMA Arvin Lapiz, SAKAMOTO Kotaro), BOEM Alberto	Tsukuba Global Science Week 2017	Internet of Things: interdisciplinary applications and social perspectives	Best Poster, Best Presentation Award
2017年 10月22日	杉本 実夏	Stanford's health hackathon "health++ 2017"	スマートおしゃぶり"your pacifier"	3rd Place grand Prize, Persistent-Neodesign \$1k
2017年 10月27日	西田 惇	総務省 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) 平成29年度 独創的な人向け特別枠「異能vation」プログラム	作品名: bioSync 題目: 装着型デバイスによる身体認知機能の最大化に基づく人々のエンパワーメント	採択
2018年 1月30日	小崎 湧太	Edge Next「発展編」海外研修	Soft Exo Muscle	Best Presentation Award
2018年 3月3日	(VALDERRAMA Arvin Lapiz, MAEZONO Sakura, SAKAMOTO Kotaro), BOEM Alberto, (HONDA Takato), TAKATORI Hikaru, (YAGI Takuma)	7th Hyper Interdisciplinary Conference 2018	TelepaSee: a mind scanner	Best Poster Award
2018年 3月4日	倉本 尚美	ジャパン・ビジネスモデル・コンペティション(JBMC)	人工知能で嚙下を測る「GOKURI」	優勝
2018年 3月7日	佐藤 綱祐	情報処理学会 インタラクティブ2018	ひらがな書字学習における触覚化支援手法	インタラクティブ発表賞 (プログラム委員推薦)
2018年 4月11日	(PAEZ GRANADOS Diego Felipe), 佐々木 海, (門根 秀樹, 清水 如代, 鈴木 健嗣)	Mobility Unlimited Challenge	Towards Life with Standing Mobility Unlimited	Discovery Award
2018年 6月5日	小崎 湧太	ロボティクス・メカトロニクス講演会 2018	柔軟素材の変形により開眼・閉眼動作を支援する顔面装着型ロボット	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞

招待講演・招待展示・その他自主的な活動一覧

2017年6月3日	高嶋 倫太郎, 朝倉 靖成, 佐藤 綱祐, つくばイノベーションワールドフェスタ2017にて招待展示
2017年9月7日-11日	大岡 岳, 杉本 実夏, BOEM Alberto, BRUMLEY John, ISHAC Karlos, 西田 惇, 高嶋 倫太郎, 高鳥 光, 利根 忠幸, CHACIN Aisen Carolina, Ars Electronica Festival 2017にて招待展示
2017年9月14日-16日	杉本 実夏, 大岡 岳, BRUMLEY John, JAZBEC Maša, Speculum Artuim 2017にて招待展示
2017年9月16日-2018年3月11日	西田 惇, 高鳥 光, 佐藤 綱祐, 「マジリアル〜VR・ARが作り出す不思議体験」にて招待展示
2017年9月20日-22日	高鳥 光, TGSW 2017にて招待講演
2018年2月14日	敷根 伸光, Norwegian University of Science and Technology (ノルウェー科学技術大学)にて招待講演
2018年6月15日	佐藤 綱祐, APPS JAPAN 2018にて招待講演
2018年7月29日	西田 惇, 伊達青年会議所・未来へ挑む実行委員会主催イベントにて招待展示

授業紹介

エンパワーメント情報学原論(ラボラトリローテーション)

システム情報系 大槻 麻衣 助教

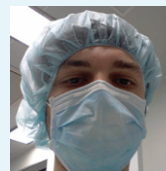
エンパワーメント情報学原論では、本プログラムの全体像を把握し、幅広い領域に対する俯瞰力を養うことが目的です。様々な専門分野の先生方によるオムニバス形式の授業で「人の機能を補完し、人とともに協調し、人の機能を拡張する情報学」である「エンパワーメント情報学」の体系をコンパクトに理解することができる授業です。

また、授業内での「ラボラトリローテーション」では、自身の専門分野を超えて他の研究室活動に参加し、そこで学んだことを自分の研究計画にどのように反映するか、報告を行うものです。これまでに、医療工学専門の学生が計測工学の研究室へ、人工知能研究室の学生が身体性脳科学の研究室へ訪問したり、工学・芸術専門の学生が病院の研究室で実際の手術を見学したり、工学の学生が芸術系の研究室で感性情報学・デザインについて学んだり、といった活動を行いました。

脳神経外科 (医学医療系 松村 明先生研究室)

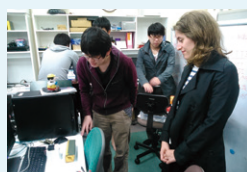


手術見学の様子



手術着に着替えた
BOEM Alberto さん

グループウェア研究室 (システム情報系 葛岡 英明先生研究室)



学生デモを見学する
LOBO Joana さん



最終発表を行う
XIE Chun さん

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 (井野 秀一先生研究室)



最終発表会に参加する
今堀 仁誠さん, 本間 由樹子さん,
FERRER Cesarさん, 杉本 実夏さん



開発中のデバイスを体験する
FERRER Cesar さん

主な行事 (2017秋～2018夏)

2017年 10月20日・21日	博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2017
2017年 11月20日・21日	最終達成度審査(FASA)実施
2017年 12月11日	FD研修会
2018年 1月25日・2月7日	学位論文審査実施
2018年 2月23日・26日・27日	博士論文研究基礎力審査(QE)、第1段、第2段達成度審査実施
2018年 3月1日	PO現地訪問
2018年 3月23日	学位記授与式
2018年 4月1日	2018年度国立大学法人筑波大学特別奨励学生34名採用
2018年 4月6日	2018年度新入生向けオリエンテーション実施
2018年 4月6日・7日	Interdisciplinary Workshop for Leading Students 2018 (IW4LS2018)
2018年 5月6日	EMP Open Studio 2018 開催
2018年 7月7日-16日	日蘭合同サマワーケーション
2018年 7月25日	外部評価委員会 FD研修会

EMPセミナーシリーズ

エンパワーメント情報学プログラムで運営しているセミナーシリーズです。
エンパワーメント情報学における主要な学術領域の最先端の研究者を招き実施しています。

	年月日	講演者	演題
企業と技術者 特別講義	2017年 10月13日・ 27日	板越 正彦氏 ビジネスコーチ株式会社 クラウド担当顧問兼エグゼグティブコーチ	プロジェクトマネジメント
企業と技術者 特別講義	2017年 11月4日	高瀬 進氏 京都大学工学研究科 メカトロニクス研究室 研究員	アントレプレナーシップ入門
The Special Meeting of EMP Colloquium Series	2018年 1月16日	Ms. Nagin Cox NASA, Jet Propulsion Laboratory NASA/JPL Spacecraft Operations Engineer	Dare to Do Mighty Things: Piloting to and on other worlds
The 1st Meeting of EMP Seminar Series	2018年 4月11日	Dr. J. Michael Herrmann (University of Edinburgh, School of Informatics and Edinburgh Centre for Robotics)	Critical Brains for Autonomous Robots



博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2017



QE、第1段、第2段達成度審査



外部評価委員会・FD研修会

入試情報

下記の日程で2019年4月入学者を募集しています。要項等の詳細はウェブサイトをご覧ください。

種類	時期	募集人員	募集要項公開時期	願書受付期間	試験日	合格発表日
一般入試 出願形式：WEB *英語版のみ	10月期	6名(1年次)／若干名(3年次)	5月	9月3日(月)～25日(火)	10月31日(水)	11月19日(月)
	2月期	若干名(1年次)／若干名(3年次)	7月	12月3日(月)～26日(水)	1月31日(木)	2月15日(金)
履修者特別選抜 出願形式：紙媒体	12月期	6名(1年次)／若干名(3年次)	7月	11月12日(月)～16日(金)	12月3日(月)	12月14日(金)
	2月期	若干名(1年次)／若干名(3年次)	7月	1月15日(火)～18日(金)	1月31日(木)	2月15日(金)

※上記日程以外に実施する場合は、随時ウェブサイトにてお知らせいたします。

